



この度当レストランbienは皆様のおかげで無事3周年を迎えることができました。そこで3周年を記念いたしまして、7月28日(月)~30日(水)の3日間「3周年記念フェア」を開催致します。心尽くしの感謝サービスを企画して皆様の御来店をスタッフ一同お待ちしております。

レストランbien料理長 内野弘誠

今年のながさん祭りでは、レストランbien特製ローストビーフのピアディーナサンドを300円で出品致します。(ピアディーナとは、イタリアエミリア・ロマーニャ地方に伝わる薄いパンです。)限定100食をご用意いたしております。あわせてパン工房においては、スペインのお祭り菓子、チュロスを通通常130円のところを100円で販売いたしますので、是非お立ち寄り下さい。

お誕生日・結婚記念日・同窓会...

少人数から30名様まで各種パーティー承ります。

ご予約・お問合せ

パン&レストランbien 06・6568・3443

大阪府西成区長橋3-7-28 プランコート1F

営業時間

ランチタイム : 11:00~14:00

ディナータイム: 17:00~21:00(LO)

パンショップ : 8:00~20:00



今月のアート

打ち入りでござる!!

(この記事はブログでも紹介しています、ナイスのブログもよろしく)

人・街・仕事づくり 検索

N=NICE VIEW《ナイスの視線》で、A=ART《芸術》&AMUSE《楽しませる》や、V=VENTURE《冒険する》&VOICE《声》を、I=ISSUE《発行物》でお届けします。

フランシス・コッポラ監督が79年に製作した映画「地獄の黙示録」には、ワグナーの「ワルキューレの騎行」(楽劇「ニーベルングの指輪」)と、ドアーズの「ジ・エンド」が挿入されていた。アメリカ海兵隊のベトナムでの狂気と、その地で王国を築く男の狂気がぶつかり、ドラマの異様さと終末感を印象づけられ、僕にはこの2曲がセットになって、「地獄の黙示録」が成立していた。「ジ・エンド」は、ドアーズが67年に発表した最初のアルバム「ザ



hidari maki no 二つ逸曲

アナログレコードの逆襲 その14 ザ・ドアーズ「ジ・エンド」 アルバム「ザ・ドアーズ」から

「ドアーズ」(邦題「ハートに火をつけて」)に収録されている曲だ。ヴォーカリストのジム・モリスンを始め4名のドアーズは、サイケデリック・カルチャーの最盛期、ウエストコーストからスタートしているが、どちらかといえば、ヒッピーとかフラワー・ムーブメントとかいうヘラブ・ピースなイメージというよりも、精神世界という方が、届かぬ光を求める求道者のような印象がある。とくにJ・モリスンがパリに渡り、新しい詩作活動を始める直前の71年、27歳の若さで心臓麻痺を起こし亡くなったことは、一層その神秘性を深めてしまった。同じ頃、シミ・ハンドリック、ジャニス・ジョプリンらロック・カリスマたちが次々他界し(しかも3人とも享年27歳)、音楽シーンやピートニクたちにとってショックを受け続けた時代だった。

とはいえ、セックス・シンボルと騒がれ、数々の刺激的事件やスキャンダルを起こしながら、「ハートに火をつけて」は全米三週間ナンバーワンを記録したり、「タッチ・ミー」や「ハロー・アイ・ラブ・ユー」など、ポップなロックをヒットさせ続けた。アルバム「ザ・ドアーズ」には、「ハートに火をつけて」と「ジ・エンド」が同時収録され、これらはドアーズの光と影になっている。「ジ・エンド」は長い曲だ。暗澹と、あるいは終りを予感させ、そして死へ向かう詩曲のように感じてしまう。その後パーティー・スミスやニコなど、ジムを敬愛する歌手たちによって「ジ・エンド」は歌い継がれている。

hidari maki



ユニバーサルホテル「ビッグアイ」を知ってますか?

先日、堺市にある国際障害者交流センタービッグ・アイで、NPOの総会を開催し、その夜投宿した。宇宙戦艦ヤマトの松本零士がプロデュースした大型児童館ビッグバンに隣接している研修施設兼ホテルだ。このビッグバンは、1999年エル・チャレンジが初めて清掃業務を受託した施設で、ビッグアイは、今年から旧知の大都美装という会社が運営を請け負っている。さらに、その館内レストラン「ぐらん・じゅ」の経営はわが機ナスという、ボクにとってもいわく施設なのだが、ホテルに宿泊したのは、この日が初めてだった。

NPOの総会では、堺市の部長さんから、堺の歴史と経済の講話を拝聴した。ボクは、古代、近世において自由都市として栄えた堺に、しばしタイムスリップして、夢想した。そうして、夜は、バリフリーデザインだけに、廊下も、部屋も、お風呂も、なんとも広く、のびのびした空間を味わった。何と云っても、よく利用する高層ホテルとは違う、三階建てのシティホテルの雰囲気心地よかつた。かつて訪れたイタリアの地方都市のホテルも低層だった。日本式の旅館とも違う低層ホテルの趣に、ボクは、「地方都市・自由都市・人間都市」というようなイメージを勝手に膨らませていた。きっと人間の歴史のお話が出来てきたのだと思う。頭の中で描く歴史上の自由都市と、実体験しているリアフリーの都市空間が、何故か、とてもマッチしていた。

ビッグアイは、障がい者のために設計されているが、すべての人々が気軽に利用できる、ユニバーサルホテルだ。でも知名度は低い。ボクは、ビッグバンやビッグアイが歴史に溶けて、自由都市を構成していくさまを夢想した。ビッグバンから始まったエル・チャレンジも、もうまもなく10年の時を刻もうとしている。さっと、エル・チャレンジのボクの仲間たちは、自由都市堺とビッグバンやビッグアイの素敵な案内状をつくってくださるだろう。ボクは、そう確信している。働く障がい者もまた、このまちに溶けていった10年だった。



国際障害者交流センター (ビッグ・アイ) 大阪府堺市南区茶山台1-8-1 TEL:072-290-0900 FAX:082-290-0920 東北高速鉄道「泉ヶ丘駅」 http://www.big-i.jp/

機ナス代表取締役 富田一幸

